

ゆいのき ミニ

速報版 13

R2.8.20

室田和宏

夏野菜のカレーにフルーツポンチ！

夏休み明け、相変わらずの猛暑が続いています。例年にも増して暑さが厳しく過酷な環境の中、調理員さんが心をこめてくださった第1日目の給食は「夏野菜のカレーとフルーツポンチ」。カボチャにナス、インゲン豆と夏野菜がゴロゴロ。元気がでるメニューに、残食もとても少なかったようです。そして、手前味噌にはなりますが、学校業務の渡邊さんは、この暑さの中、毎日毎日、休憩時間も惜しんで汗だくになりながら校内環境の美化に努め、手すりなど校内共用部分の消毒も行っています。陰ながら私たちを応援してくださっている、いろいろな方への感謝の気持ちも忘れずに、学校生活をスタートしたいものです。

AKB?TKG?いえいえ、考えたいのはTPO！

休み明け、今や恒例となったTV朝会では「1学期の後半、暑さやコロナ禍の中だからこそ、学びを高め、目的を達成するためにTPOを考えた行動を心掛けよう。」と話しました。今は何をすべき時？そこへ行くのは何のため？その場合とるべき行動は？周りの状況は今どうなっている？ことを考え、主体的に行動する姿を期待したいと思います。

学校における生活指導の最終的な目的は、「TPOをわきまえた行動様式を身に付けること」と言っても良いのかもしれませんが。私たちが目指している思いやりあふれる“まごころ日本一”も、前号で触れた“コロナ渦中の人権感覚”も大きくとらえるとこの中に含まれて来るのだと思います。1学期後半のキーワードにして、学校全体で意識を高めていこうと考えています。いろいろと制約されることが多い生活の中でも、メリハリをきかせ楽しい学校生活を創り上げていくために。

通学路の合同点検



7月31日、市道路管理課、中央警察署の交通管理者、市教委学校健康課と連携し、通学路の合同点検を行いました。昨年度からの懸案となっている羽下地区の通学路（下荒針2454-1）について路面表示や、歩道表示白線塗りなおし、注意喚起看板の取り換えなどの必要性を確認し、各部署で対応いただけるよう確認をいたしました。安全な登下校について、引き続き指導し、交通事故の防止に努めてまいります。

コロナ対応衛生管理マニュアル8/6の主な改訂点

- 児童の机やイスは、毎日特別な消毒をする必要はなく、通常の清掃を行う中で清潔を保つこと。
- 暑さ指数が高い日にはマスクを外す。その場合は、人と十分な距離を確保し会話を控える。
→登下校時、暑い時はマスクをしなくてもよい。ただし人との距離を考え、会話は控える。
ただし、学校生活にマスクは必須です。予備のマスクも準備しておくとう安心です。
- 学校で感染者が発生した場合でも、臨時休業は濃厚接触者の特定や検査実施に必要な日数等で足り、現在は1～3日の臨時休業後の学校再開が一般的となっている。
→同居の家族に風邪症状が見られる場合も、登校させないようにしてください。詳しくはご相談を。

ゆいのき ミニ

速報版 15

R2.9.2

室田和宏

コロナ巡る偏見，差別防げ

下野新聞の第1面に大きくこんな見出しが躍ります。県と県内25市町村が8月21日、「**新型コロナとの闘いを乗り越えるオールとちぎ宣言**」の記事です。宣言は感染者や家族らに対する差別，誹謗中傷などを許さず，医療従事者らに感謝の気持ちを持つことなどをうたっています。PCR検査を受けた子どもが学校でいじめを受けた事例なども報告されました。

また，去る19日には栃木、福島、茨城、群馬、新潟の5県は宇都宮市で「北関東磐越五県知事会議」を開催し、新型コロナウイルスの感染拡大防止と観光産業の回復に向けた共同宣言を出しました。新型コロナ対策では患者発生情報の早期共有や医療用資機材の確保など，観光産業の回復に向けては，感染状況を注視しながら各県の安全性を発信することなどが盛り込まれました。コロナとの闘いに向け，県ごとの感染者数に目が行きがちですが，県内だけにとどまらぬ地域での連携も進められています。

私たちが闘っていく相手は，コロナウイルスであって，そのためにみんなが協力して「新しい生活様式」を取り入れ，不自由なことを我慢し，工夫しながら生活しています。わたしたちがやるべきことは「**ささえあうこと**」であって決して「**非難し合うことではない**」ということ，学校で，家庭で，地域みんなで，子どもたちに言い聞かせるべき時は，まさに今です。

災害等が起きた時，復旧に向け立ち上がる住民やボランティアの様子が紹介され，改めて「自分にできることは・・・」とハッとさせられることがあります，一方では「火事場泥棒」のような心無い事件もありふれた出来事になりつつあるようです。長く教育に携わってきた立場から，「自分たちはいったい何を子どもたちに教えてきたのだろうか」という思いが頭の中をよぎります。当たり前でない時にこそ，しっかり自分の心に向き合い，正しい判断ができるような人間に育てていくのは私たち大人の責任です。ピンチはチャンス，「**さすがコロナ時代を乗り切った世代だ！**」と言われるような子どもたちに育てていきましょう。さあ，9月のスタートです。

「あいさつにスランプなし！」

ものまね芸人として活躍する松村邦洋さんの言葉です。「芸の出来不出来はあるけれど，挨拶だけはどんなに調子が悪い時でもできるから，これだけは欠かさない・・・」。とても好きな言葉です。夏休み明け，先週までの2週間は4年生，今週からは3年生が，あいさつ運動に取り組んでいます！



ゆいのき

三二

速報版 16

R2.9.8

室田和宏

日頃から災害への備えを

9月に入り、立て続けに2つの大きな台風が日本列島を襲い、九州地方では甚大な被害を及ぼしています。被害にあわれた皆様に、心よりお見舞い申し上げたいと思います。

先日、城山地区の「避難者初期支援に係る打合せ」がありました。本市でも、昨年度の台風19号の際の反省を踏まえ「避難者初期支援マニュアル」の改訂作業に着手しています。城山地区におきましても、避難所を開設するにあたっての役割分担や緊急連絡体制等について、細部を検討していくために、地区防災会の方々と交えた顔合わせをし、避難所の開設に係る課題や運営方法についても話し合いが持たれました。これを受け、本校でも「避難者初期支援マニュアル」を、城山中央小学校の実態に即したものに修正すべく、改訂作業を行っているところです。

城央小は土砂災害警戒区域が隣接するために一次避難場所には指定されていません。万が一の洪水等の際には、近隣の城山中や、城山東小、明保小、城山地区市民センターが一次避難場所となります。ご注意ください。

（地震の場合には、本校に避難所が開設される場合があります。）

降雨量は年を追うごとに我々の予想を上回るようになり、比例して、水害、土砂災害は規模を増しているようです。ハザードマップや避難場所の確認等、日頃から万全の備えをしておく必要があります。

児童の登下校中に、急に雨量が増すような場合もあるかもしれません。交通安全の観点に加えて、災害安全の観点からも通学路の危険箇所を普段からチェックし、学校と家庭の双方から、子どもたちに警戒を呼び掛けていきましょう。

声を大にして「一生懸命がカッコイイ」と！

5年生と6年生が9月1日、サツマイモ畑の草とりとつる返しの活動を行いました。休業明けの6月に苗植えをしたサツマイモのつるは、驚くほど成長していました。苗植えの指導をしていただいた後も、安納様にはいろいろとアドバイスをいただき、学校管理課機動班による刈り払い機での草刈りも、数回にわたり行ってきました。そして、今回は上級生として5、6年生が大活躍。「低学年の子たちがサツマイモほりを楽しめるように！」と、たっぷり1時間以上頑張ってくれました。比較的涼しい午前中の活動でしたが、それでも気温は30度に近く、動いていると汗びしょり。抜いた雑草を両腕に持ちきれないほど抱え、泥だらけになって活動していた子も何人もいました。頼もしい上級生の姿を、今回も見せてくれました。このような行事を通して「一生懸命がカッコイイ！」ということを、声を大にして子どもたちに伝えたいと思います。下級生がイモ掘りに来た時の歓声、笑顔が楽しみになりました。



ゆいのき

三二

速報版 17

R 2.9.15

室田和宏

11日の金曜日に授業公開を行いました。混雑を避けるために、5月の分散登校のグループ分けを生かして、地区ごとに来校時間を制限しての実施となりました。

印象的だったのは、子どもたちのとてもうれしそうな表情。上学年は、普段とはちょっと違う雰囲気の中でも、さすがにひょうひょうと、そして集中して授業に臨んでいました。下学年の教室では、校庭に向かって窓からおうちの方に手を振り、大歓迎している姿が印象的で、「学校生活がんばっているよ！」と言わんばかりに張り切る姿には、元気をもらえたのではないのでしょうか。

コロナ禍での授業公開ということで、「安全、安心な実施が可能か否か？」と校内でも議論がありました。人数の多い学年ではできるだけ広い教室に授業場所を変更したり、発表の順番を可能な範囲で調整したりと、授業内容も普段通りにはいかない面も多々ありましたが、子どもたちの元気な学校生活をご覧いただき、少しでもご安心いただくことができたでしょうか。

そして一方、暑い中ベランダでの参観にご協力いただいた方、入れ替えの時間には自動車が込み合いゆずりあって安全に対応していただいた方、兄弟の公開時間になるまで、屋外に出て時間調整をされていた方もいました。密にならないようにと、来校を控えてくださった方もいらっしゃったようです。様々な立場でのご協力により、有意義な授業公開が実施できましたことに改めて感謝いたします。



ゆいのき ミニ

速報版 18

R2.9.25

室田和宏

「GIGAスクール構想」急ピッチ！



児童が1人1台の情報端末を使えるようにする「GIGAスクール構想」が急ピッチで進んでいます。コロナ禍における課題解決策にと、3カ年計画を前倒して本年度中に配備される予定です。本校でも、授業のない土日を利用して、ネットワークの工事や、各教室へPCを収納するスチール棚の設置などが行われています。教室の後方に、突如見慣れない大きなボックスが設置され、まだ中身は空ですが子どもたちも興味津々です。教科書やノート、筆記用具とあわせて、学習用具の一つとしてタブレット等の情報端末が使用されるようになるのも、もうすぐです。

「学びポケット」

「学びポケット」の試験運用も実施しています。臨時休業の際に、学校と家庭の双方向の学びを保証するという観点から宇都宮市で導入されたものです。今回、簡単なアンケートを送付する形で行いましたが、皆様のご家庭では回答することができましたか？学校と家庭がオンラインでつながることで、毎日の健康観察や朝の会を行うことで生活のリズムを整えたり、学習指導は勿論、友達のコメントをクラスみんなで共有したりと、様々な活用方法が考えられます。臨時休業中にかぎらず、普段から活用していくことになります。



24日現在の回答率は、60%ほどです(涙)。スマホでもログインは可能ですので、是非アンケートに回答して(本日25日中ならば間に合います)、今後の本格的な運用に備えていただきたいと思います。

「環境が整っていない。」「うまくつながらない」など、お困りのことや、使用してみたの不具合等がございましたら、まずは担任までご連絡ください。

プログラミング的思考

4年生が、総合的な学習で学んだプログラミングについて、絵本形式にまとめていました。ロボットにプログラミングをして、生活に役立てるまでをストーリーに仕立てるなど、工夫してまとめていました。論理的な思考力を身に付けるためのプログラミング教育を、小学校では算数、理科、総合の時間に取り扱っていきます。



ゆいのき

三二

速報版 19

R2.10.1

室田和宏

修学旅行へ向けて！

25日に6年生児童と保護者に向けて、修学旅行説明会を開催しました。宇都宮市内でも、規模や地域の実情は異なるため、学校によって対応は様々です。本校のように福島方面に行き先を変更する学校、仙台方面を目指す学校、那須方面や日光方面、日帰りで実施する学校・・・。



修学旅行の目的は、一般的には「仲良くなること」「絆を深めること」「文化財等に直接触れること」などが言われます。さらに加えて、大切な目的として、「**対立が起きることを自覚すること**」をあげる先生がいます。

「子どもたちにとっての一大イベントであるからこそ、一人一人様々な感じ方・考え方がぶつかりあいます。一つのアイデアをまとめることはたやすいことではありません。意見がぶつかれば、大人でもイライラすることがあります。修学旅行は、こうした現実を受け止め解決するスキルを学ぶ絶好の機会なのだ」と。

これは修学旅行だけに言えることではありません。5年生の冒険活動教室はもちろん、1～4年生の遠足でも、多かれ少なかれ同じような目的を達成すべく、取り組んでいくことが大切になってきます。

2020の秋、遠足等の予定は次のようになっています。

10月21日(木) 6年生修学旅行(福島会津方面へ ～22日)

11月 6日(金) 遠足 1年生 宇都宮動物園

2年生 壬生わんぱく公園

3年生 ながわ水遊園

4年生 ツインリンクもてぎ

11月17日(火) 5年生冒険活動教室

コロナ対策として、必要に応じてバスの大きさを変えたり、台数を増やしたり、修学旅行では部屋の定員を減らしたりと様々な対応を工夫しているところです。もちろん参加する側にも、コロナ禍の新しい生活様式の中、TPOにあわせた節度ある行動がもとめられます。「GO TOトラベル」の対象になるようなパッケージにすることで、経費を下げることもできるのも、今年ならではの。しかし一方、行先によってクーポンが発行されたり、キャンセルや欠席の場合には割引前の料金を基に計算するなど、補助がされるがゆえの会計上の悩みなど生じたり・・・。なかなかすんなりと物事を進めさせてもらえませんが、今年はとくに意義深さを感じるこれらの行事を、安全に、そして保護者の皆様に安心して送り出していただけるよう、準備を進めてまいります。

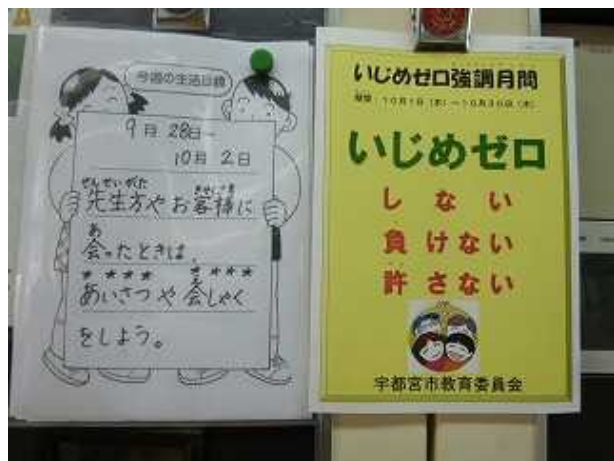
ゆいのき ミニ

いじめゼロ強調月間！

速報版 20

R2.10.6

室田和宏



10月はいじめゼロ強調月間です。今日はその初日ということで、児童会を代表して企画委員会のさんから、全校にいじめ撲滅を呼びかける放送がありました。とても立派にスピーチしていたので、その内容を紹介します。

『いじめゼロ月間は、その名の通りいじめをゼロにしようという月間です。いじめをしないということだけでなく、いじめられている人の気持ちを考えることのできる1か月にしましょう。なぜ、いじめをしてはいけないのでしょうか？それは、誰かが傷ついたり、いやな

目に合ったりしてしまい、つらい思いをしてしまうからです。いじめられている人がいたら「だいじょうぶ？」などの声をかけられると良いですね。また、困ったことがあった時、友達のことではなやんだ時には、勇気を出して周りの人に相談してください。絶対に一人で悩まないでください。周りの友達、先生、うちの人が力になります。城央小みんなで協力して、「いじめゼロの学校」となるように、いじめゼロ宣言を心にとめて生活しましょう。合言葉は「たすけあおう、ゆうきをだそう、そうだんしよう」です。』

まごころ日本一の学校を目指す私たち、いじめへの対応としては「いじめに発展しそうな事案を見逃さないよう敏感にアンテナをはり、事案の早期発見と、組織で対応に努める」ことを心掛けています。強調月間の取組を契機に、人権意識の啓発に取り組んでいきたいと思います。ご家庭におきましても、大切なお子様がくれぐれも「いじめる側にならない」ために、見守りと一人一人に合ったお声掛けをお願い致します。そして、心配なことがあれば、遠慮なく学校へご相談ください。



児童会（企画委員会）では今月いっぱい、継続的に啓発活動に取り組みます。「児童自らがいじめ撲滅の旗振り役となる」姿に、頼もしさを感じます。

児童の皆さんには、この10月、「だいじょうぶ？」の声かけをたくさんしてほしいと思います。

<< お知らせ >>

10月2日（金）に学習支援員の先生が着任しました。主に最終学年となる6年生の学習を中心に支援にあたり、学習内容の確実な定着に努めてまいります。2月末日までの期限となります。他のスタッフ同様、どうぞよろしくお願い致します。早速、初日から6年生の家庭科、ミシンの授業の支援に入りました。



ゆいのき ミニ

速報版 21

R2.10.9

室田和宏

雨ニモマケズ、暑サニモマケズ

コロナニモマケズ！



2か月にも及ぶ臨時休業明け、夏休みが短くなっても、勉強時間が増えても、最後まで頑張り続けた子どもたちに何かできることは・・・

1学期の終業式だった今日、PTA執行部のみなさんが中心になってサプライズのプレゼントを準備してくださいました。中に入っている賞状症状には「雨ニモマケズ、暑サニモマケズ、コロナニモマケズ・・・」と。

『本当によく頑張った！』という気持ちは、まさにPTA全員の共通の気持ちなのではないでしょうか。PTAの皆様の“まごころ”に心より

感謝申し上げます。子どもたちの頑張りによって、私も負けてはいられません。

前日に無理やり頼み込み、急きょ前校長先生に来校していただきました。

「城央小の皆さんのよいところは、明るくて元気なところ、そして素直でやさしいところ。そんな皆さんが大好きでした。そしてこれからもずっと大好きです。」と言葉をかけてくださいました。

3月の臨時休業以来、満足なお別れもできず、本校のことをどれだけ気にかけていたことでしょうか。子どもたちも、とても喜んでくれました。

いじめゼロ宣言・イエローリボン・ふわふわ言葉



1学期の締めくくりの今週は、児童会の代表がいじめゼロを呼びかけました。5日の　　さんは『城央小の「いじめゼロ宣言」・・・1つ目は「たすけあおう」2つ目は「ゆうきをだそう」3つ目は「そうだんしよう」です。・・・迷わずだれかに相談してみましょう。』と。

6日は　　さんが『黄色には、「うれしさ」「あたたかさ」「しあわせ」を表し、「命を守る」という意味も持っています。・・・リボンの結び目のように、心と心をつなぐという意味が込められているそうです。』そして8日には　　さんが『ふわふわ言葉はやさしい言葉のことです。・・・一方ちくちく言葉は言われると悲しくなる、いじめのもととなる言葉です。相手の気持ちを考えて、ふわふわ言葉をたくさん使って「いじめゼロの学校」となるように生活しましょう。』この呼びかけに心をひびかせるかどうかは・・・私たち自分自身にかかっています。